

# I 調査の概要

## 1. 調査目的

本市では平成 28 年度から「松阪市総合計画～住みやすさ進行中！バージョンアップ松阪～」をスタートさせました。本調査は、今後この計画を実現していくため、市の政策や行政サービスに対する市民の皆様のご意見やご要望を調査、把握するために実施しました。

## 2. 調査概要

(1) 調査の名称

松阪市市民意識調査

(2) 調査対象

市内にお住まいの 15 歳以上の方

(3) 調査時期

平成 29 年 7 月 7 日～平成 29 年 7 月 25 日

(4) 調査方法

無作為に抽出した 3,000 人の市民への郵送による調査

(5) 回収結果

調査年度	標本数	回収数	回収率(%)	有効回収数	有効回収率(%)
平成29年度(今回)	3,000	1,330	44.3	1,330	44.3
平成27年度(前回)	5,000	2,376	47.5	2,371	47.4
平成24年度	3,000	1,305	43.5	1,301	43.4
平成21年度	3,000	1,506	50.2	1,505	50.2
平成17年度	4,000	1,961	49.0	1,841	46.0

※有効回収数：回収した調査票より全て記入のない白票等を無効票とし除いた数

## 3. 報告書における図表の見方

- ①図表内の「n」は、設問に対する回答の合計数である。
- ②単数回答の設問は帯グラフ、複数回答の設問は棒グラフとする。
- ③集計は、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示しているため、比率の合計が 100.0% とならない場合がある。
- ④複数回答を求めた設問では、設問に対する回答者数を基数として算出しているため、回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- ⑤クロス集計表では性別や年齢について無回答の人を除いているため、回答者総数と数が合わないことがある。
- ⑥本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。

#### 4. 標本誤差

標本誤差は、以下の式で得られ、比率算出の基数（n、回答者数）、回答の比率（p）によって誤差範囲が異なる。回答比率は、ある設問の1つの選択肢に対して得られた回答者の割合である。定数 1.96 は、信頼率 95%と設定した場合の定数である。

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n} \times 1.96}$$

N：母集団数、n：サンプル数（有効回答数）、p：回答比率

この計算式に従って算出される各調査の標本誤差は以下のとおりとなる。

##### (1) 松阪市市民意識調査 (N=165,638)

回答比率 n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1330	±1.60%	±2.14%	±2.45%	±2.62%	±2.67%
563 (男性)	±2.48%	±3.30%	±3.79%	±4.05%	±4.13%
749 (女性)	±2.15%	±2.87%	±3.28%	±3.51%	±3.58%